

「釧路湿原自然再生協議会」

## 第 11 回 水循環小委員会

資 料

平成 25 年 3 月 21 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

# 釧路湿原自然再生協議会

## － 第 11 回 「水循環小委員会」 －

日時：平成 25 年 3 月 21 日（木） 13：30～15：30

場所：釧路地方合同庁舎 7 階 共用第 5 会議室

### 議 事 次 第

1. 開 会
  
2. 第 6 期水循環小委員会の委員長及び委員長代理の選出
  
3. 議 事
  - 1) 水循環小委員会の検討の流れについて
  - 2) 水循環小委員会の今後の検討方針について
  - 3) 水質調査結果について
  
4. 閉 会

**釧路湿原自然再生協議会  
第11回水循環小委員会 委員名簿**

計：42名

■個人（18名）

（敬称略、五十音順）

No	氏名	所属
1	井上 京	北海道大学大学院 農学研究院 教授
2	石川 孝織	釧路市立博物館
3	梅田 安治	農村空間研究所 所長、北海道大学名誉教授
4	岡田 操	
5	河内 邦夫	室蘭工業大学 環境科学・防災研究センター
6	櫻井 一隆	
7	新庄 興	
8	杉澤 拓男	
9	杉山 伸一	環境カウンセラー(市民部門)
10	高清水 康博	新潟大学 人文社会・教育科学系 准教授
11	橘 治国	
12	藤間 聡	室蘭工業大学 名誉教授
13	中津川 誠	室蘭工業大学大学院 工学研究科くらし環境系領域 教授
14	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
15	中山 恵介	北見工業大学 教授
16	三上 英敏	北海道環境科学研究センター 環境保全部水質環境科
17	山田 雅仁	
18	若菜 勇	阿寒湖畔エコミュージアムセンター マリモ研究室

■団体（14名）

（敬称略、五十音順）

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路川カヌーネットワーク	会長 小川 清史
2	釧路川水質保全協議会	会長 川上 三郎(釧路市公営企業管理者)
※	3 釧路国際ウェットランドセンター	理事長 蝦名 大也
4	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
※	5 釧路湿原国立公園連絡協議会	会長 蝦名 大也
6	釧路湿原塾	事務局次長 坂野 賀孝
※	7 公益財団法人 北海道環境財団	(専務理事 斎藤 卓也)
8	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
9	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
10	特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所	理事長 赤松 里香
11	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和
12	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
13	北海道標茶高等学校	校長 西田 丈夫
14	北海道プロフェッショナルフィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤

■オブザーバー（3団体）

（敬称略）

No	団体/機関名	代表者名
1	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
2	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 瀧澤 義一
3	阿寒農業協同組合	代表理事組合長 小瀬 泰

■関係行政機関（7機関）

（敬称略）

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 岡部 和憲
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 西山 理行
3	北海道 釧路総合振興局	局長 村井 悟
4	釧路市	市長 蝦名 大也
5	釧路町	町長 佐藤 廣高
6	標茶町	町長 池田 裕二
7	鶴居村	村長 大石 正行

※：第6期（前期）新規委員

## 水循環小委員会の検討経過

	議事
第1回 H16. 2. 15	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全体構想と小委員会の関わりについて</li> <li>2) これまでの調査・検討経緯について</li> <li>3) 今後の調査・検討方針について</li> </ol>
第2回 H16. 6. 29	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 平成15年度の調査・検討成果について               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 流域の水理地質</li> <li>(2) 地下水位観測結果</li> <li>(3) 河川水環境の保全に関する検討結果（栄養塩の流出形態、負荷量）</li> </ol> </li> <li>2) 平成16年度以降の調査・検討方針について</li> <li>3) 全体構想との関わりについて</li> </ol>
第3回 H17. 1. 26	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) これまでの調査検討経緯と今後の計画</li> <li>2) 平成16年度の調査・検討成果の報告               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 流出負荷量の検証</li> <li>(2) 栄養塩削減効果の検討</li> </ol> </li> <li>3) 水循環小委員会の今後の進め方</li> <li>4) 勉強会：流域の水物質循環系について（中津川委員）</li> </ol>
第4回 H17. 6. 2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) これまでの調査・検討経緯の概要と今後の検討方針</li> <li>2) 平成16年度調査・検討成果および平成17年度の調査検討計画</li> <li>3) 勉強会：泥炭地の地下水（梅田委員）</li> </ol>
第5回 H17. 11. 2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現地見学会・意見交換</li> <li>2) 勉強会：釧路湿原周辺の地質と地下水（許氏）</li> </ol>
第6回 H19. 2. 8	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 水循環小委員会での検討の目的</li> <li>2) これまでの調査・検討成果の概要               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 水理地質構造、湧水状況</li> <li>(2) 釧路湿原の地下水位</li> </ol> </li> <li>3) 現状の課題と平成18年度の調査・検討内容</li> <li>4) 平成19年度以降の調査・検討予定</li> </ol>
第7回 H20. 1. 17	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 水循環小委員会での検討の目的</li> <li>2) 第6回水循環小委員会【改訂版】について</li> <li>3) 地下水位シミュレーションの実施について</li> <li>4) 今後の調査・検討予定</li> </ol>
第8回 H21. 3. 23	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 水循環小委員会の目標と検討の進め方</li> <li>2) 水循環検討会の成果報告</li> <li>3) 今後の調査・検討予定</li> </ol>
第9回 H23. 3. 28	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 水循環検討会の成果について</li> <li>2) 5年目の施策の振り返り</li> </ol>
第10回 H23. 12. 27	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 水循環検討会の成果報告及び湿原域モデル(釧路湿原を対象とした計算手法)の精度向上について</li> <li>2) 湿原再生小委員会の施策への展開について</li> <li>3) 5年目の施策の振り返りについて</li> </ol>

### 水循環検討会の検討経緯

	議事
第1回 H20. 3. 28	1) 水循環小委員会の目標の確認 2) 目標達成のための手法と必要性の整理 (1) 釧路湿原の水収支と地下水位に着目した分析 (2) 釧路湿原の地下水位変動に着目した分析 (3) 分析結果を踏まえた目標達成のための手法の考え方と必要性の整理
第2回 H20. 11. 28	1) 水循環構成要素の実態整理と地下水位シミュレーションの実施フロー 2) 釧路湿原周辺の地形・地質 3) 水循環構成要素の分析結果 (1) 地下水の水位と変動傾向 (2) 丘陵縁辺部からの湧水について (3) 湿原域内の水収支(概算) 4) 水循環構成要素の分析結果のまとめと地下水位シミュレーションの方向性
第3回 H20. 12. 22	1) 泥炭層に着目した地下水挙動の分析 2) 透水係数の設定方法について 3) 地下水位シミュレーションの方法
第4回 H21. 2. 12	1) 流域(釧路川流域モデル)での地下水位シミュレーション結果
第5回 H22. 3. 26	1) 湿原域モデルの地下水位シミュレーション(現況再現)結果
第6回 H23. 1. 17	1) 水循環検討会の成果ととりまとめについて
第7回 H23. 5. 30	1) 第9回水循環小委員会での議論を踏まえた今後の方向性について
第8回 H23. 8. 8	1) 湿原域モデルの解析結果についての再整理結果について 2) 幌呂地区を対象としたシミュレーションにおける留意点について
第9回 H23. 10. 3	1) 湿原域モデルの解析結果についての再々整理結果について 2) 幌呂地区を対象としたシミュレーションにおける留意点について
第10回 H24. 10. 22	1) 今後の取り組み内容(案)
第11回 H24. 12. 25	1) 第10回水循環検討会における意見とその対応 2) 他の小委員会における栄養塩に係る取り組み 3) 水循環検討会の今後の検討方針について 4) 水質調査結果
第12回 H25. 2. 25	1) 水循環小委員会の検討の流れ 2) 第10・11回水循環検討会における意見とその対応 3) 水循環小委員会の今後の検討方針について 4) 水質調査結果

第 10 回水循環小委員会の発言概要と今後の検討方針（案）

項目	発言概要	回答および今後の検討方針（案）
水循環検討会の成果報告及び 湿原域モデルの精度向上について	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回のシミュレーションで用いた解析モデルは非常に汎用性が高いが、水理学的に難しい湿原に適用した場合、使用限界がある。</li> <li>大領域モデルと細かい領域のモデルで誤差がかなり縮まり、精度が改善した。大領域モデルは精度が悪くてダメではなく、大領域モデルは大領域モデルで、細かい領域のモデルの境界条件として使う価値がある。</li> <li>地下水の流動、推定をある程度の精度をもって行うことができたので、次に水質をどのように取り扱っていくかということの参考にしたいと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>解析モデルについては、使い分けを行っていきます。</li> <li>今後は水質に着目し、物質の移動を検討していきます。</li> </ul>
湿原再生小委員会の施策 への展開について	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の小委員会に予測結果を示す時、誤差を持っているということを明確に告げなければならない。</li> <li>他の小委員会から求められている予測地下水位を示した。これが実際の事業で使われるということになると、この小委員会の一つの使命を果たせたと考えている。その信頼性をこれから事業とともに図っていくということが重要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の小委員会には、予測結果と合わせて誤差についても報告しています。</li> </ul>
5年目の施策の振り返り について	<ul style="list-style-type: none"> <li>今のところは地下水をある程度の誤差で推定できるようになったという到達点である。物質移動、汚染物質の拡散・分散の仕方がある程度推定できるようになれば、植生まで広げて話を進めていくことができる。</li> <li>今まで得た結果で、適切でないところもあるが一応の成果をまとめることが出来た。これからどういう方向性をとっていくかは、皆さんと一緒に検討を重ねて小委員会の方向性を決めていくことになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後は水質に着目し、物質の移動を検討していきます。</li> </ul>